

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

令和元年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 小田 敏三	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	http://aizuvaichi.or.jp/
市所管課	文化政策課	電子メール	aizu-81@athena.ocn.ne.jp
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年5月8日 (平成22年12月22日 公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
その他	88,800 千円	44.8 %	
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名①	會津八一記念館管理運営事業						
事業概要	市の財産である會津八一の遺墨や八一と交友関係にあった文化人・作家の作品を保存・管理し、展覧会を通じて県民をはじめとする全国の愛好家に業績を普及する。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
公益事業	受託事業	支出額	千円	45,870	45,192	43,646	43,525
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館者数	R1	人	8,000				
	H30	人	8,000	7,845	ほぼ達成		
	H29	人	8,000	5,684	企画展で取り上げた人物の知名度が今一つで、関心を引き起こせなかった。特別展も予想を下回った。		
	H28	人	10,000	7,010	前年実績等をもとにした数字だったが、特別展以外は伸びが今一つだった。		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館料	R1	千円	3,000				
	H30	千円	3,000	2,567	目標額に見合う入館者に及ばなかった。		
	H29	千円	3,000	1,920	入館者減少によるもの		
	H28	千円	3,000	2,598	入館者が思うように伸びなかった。		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R1						
	H30						
	H29						
	H28						

2. 主要事業

事業名②		展示事業					
事業概要		新潟を代表する文人會津八一の作品と業績（短歌、書、美術史、教育）を広く知ってもらうため、八一の遺墨を中心に、年一回の特別展ではゆかりの人物や地域に焦点を当て、また3回の企画展では所蔵品を中心に作品を展示。					
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
公益事業	自主事業	支出額	千円	6,865	6,364	7,182	5,093
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
特別展 (入館者数)	R1	人	3,000				
	H30	人	3,000		2,219	中村屋サロン美術館作品を借り、絵画や彫刻といった美術に関心ある層を取り込めたと思う。	
	H29	人	3,000		1,911	「禅」をテーマに、根強いファンがいる「良寛」に引き付けたが、関心の広がりがなかったようだ。	
	H28	人	3,000		3,031	川喜田半泥子という茶や陶芸の世界でも知られた人物ということで、その方面へ浸透があった。	
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
企画展 (入館者数)	R1	人	5,000				
	H30	人	5,000		5,626	秋のテーマ「奈良・仏像」は時代に関係なく高い関心を呼ぶ。	
	H29	人	5,000		3,773	八一の友人遺族からの寄贈作品をお披露目した企画展は、その人物の知名度がなかった。	
	H28	人	7,000		3,979	移転直後の入りなどをもとに掲げた数字だったが、移転効果が薄れたともいえる一面がある。	
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
	R1						
	H30						
	H29						
	H28						

2. 主要事業

事業名③	文芸講演会事業						
事業概要	4回の展示に関連してその分野の研究者・専門家を招き、テーマに関連した内容を語ってもらう。そのことにより県民市民が教養を高める一助とする。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
公益事業	自主事業	支出額	千円	750	1,029	716	800
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
開催数	R1	件	6				
	H30	件	7		9	純粋な講演会以外に体験講座を開き、その講師からも話を聞いた。	
	H29	件	8		6	体験講座がなかったため	
	H28	件	6		8	純粋な講演会以外に体験講座を開き、その講師からも話を聞いた。	
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
聴講者数	R1	人					
	H30	人	1,000		865	講演内容によっては100人に満たない場合もある。	
	H29	人	1,200		755	テーマや取り上げる人物が地味だと関心も低い。	
	H28	人	1,500		909	講師によりけりといった側面は否めないが、人選は難しい。	
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R1						
	H30						
	H29						
	H28						

2. 主要事業

事業名④		販売事業					
事業概要		特別展図録、自主開発した商品、関連書籍、會津八一のやりとりした書簡（の活字起こし）の制作販売。					
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
収益事業	自主事業	収入額	千円	2,757	2,505	2,716	3,100
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
販売事業	R1	千円		2,000			
	H30	千円		2,300	1,707	名目をつけて割引販売をすることがあるが、そうそう売れるものではない。	
	H29	千円		2,390	2,006	〃	
	H28	千円		3,000	1,728	〃	
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
鑑定事業	R1	千円		1,100			
	H30	千円		1,000	1,009	達成。鑑定依頼数が多かった。	
	H29	千円		1,300	648	依頼が極端に少なかった。出ないことには収入にならない。	
	H28	千円		1,600	1,157	市中に埋もれているものが出てくるのを待つという文字通り「待ち」の事業であるため	
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
	R1						
	H30						
	H29						
	H28						

2. 主要事業

事業名⑤	普及活動事業						
事業概要	會津八一の業績のうち短歌について、そのイメージを写真で表現することを呼びかける。そのことによって写真分野で活動する人たちにも八一の世界をしってもらい、もって八一の業績の広まりと認知度アップを図る。また職員が館外で講演することにより、来館したことのない人からも會津八一に関心を持ってもらい、業績を認知してもらう。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
公益事業	自主事業	支出額	千円	2,483	2,432	2,775	2,600
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数	R1	点	150				
	H30	点	160	147	応募人数は前年同数		
	H29	点	180	151	増えた前年の反動減		
	H28	点	120	187	第10回ということで関心が高まったのではないかと		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
館長・学芸員の出前講演会、講座回数	R1	回	10				
	H30	回	11	8	胎内市、秋葉区荻川地区など、ほぼ恒例のように講座を開いてくれる学校・社協団体がある半面、市内中学校には呼びかけをしているものの、年間行事計画の制約があつてか声を掛けてくださるところはない。定例化しているのは胎内市内の小学校のみである。		
	H29	回	13	11	〃		
	H28	回	13	13	〃		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R1						
	H30						
	H29						
	H28						

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

(単位：人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	5	5	5	3
常勤	3	2	2	2
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	3	2	2	2
他団体からの派遣				
非常勤	2	3	3	1
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	3	3	1
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況（市派遣職員を除く。）

(単位：人)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
職員の状況	管理職	2	2	2	
	一般職	3	3	3	3
	合計	5	5	5	3
年齢構成	20代以下				
	30代	1	1	1	1
	40代	1	1	1	1
	50代				
	60代以上	3	3	3	1
	合計	5	5	5	3

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
報酬・給与等	20,962	19,837	20,264	21,162
内 市職員分	0	0	0	0
役員	0	0	7,268	7,268
常勤				
内 市職員分				
非常勤			7,268	7,268
内 市職員分				
職員	20,962	19,837	12,996	13,894
常勤	13,694	9,950	10,371	11,221
内 市職員分				
非常勤	7,268	9,887	2,625	2,673
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	4,565	4,975	5,186	5,611
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系		有 予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他 []		その他 []

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般正味財産増減の部	経常収益	52,243	51,384	50,150
	基本財産運用益	3,186	3,210	3,184
	特定資産運用益	4	1	1
	受取会費			
	事業収益	46,248	45,400	44,194
	自主事業収益	3,775	3,556	3,781
	受託事業収益	42,473	41,844	40,413
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,805	2,773	2,771
	経常費用	52,238	50,983	54,158
	事業費	50,564	49,733	52,575
	公益目的事業費	42,066	41,506	43,294
	収益目的事業費	2,987	3,083	4,022
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	5,511	5,144	5,259
	管理費	1,674	1,250	1,583
	評価損益等調整前当期経常増減額	5	401	▲ 4,008
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	5	401	▲ 4,008	
経常外収益				
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	▲ 65	331	▲ 4,078	
一般正味財産期首残高	40,212	40,147	40,478	
一般正味財産期末残高	40,147	40,478	36,400	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高		241,871	242,202	238,124

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	20,962	19,837	20,264
役員分			7,268
職員分	20,962	19,837	12,996

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
資産の部	資産の部合計	255,572	254,452	249,978
	流動資産	20,527	19,738	13,530
	現金預金	8,855	7,395	2,372
	未収金	4		
	有価証券			
	その他流動資産	11,668	12,343	11,158
	固定資産	235,045	234,714	236,448
	基本財産	201,137	200,990	200,843
	特定資産	28,358	27,161	28,668
	その他固定資産	5,550	6,563	6,937
	有形固定資産	5,325	6,143	6,321
	無形固定資産	225	420	616
	その他投資等			
負債の部	負債の部合計	13,700	12,250	11,854
	流動負債	5,963	4,811	3,699
	短期借入金			
	その他流動負債	5,963	4,811	3,699
	固定負債	7,737	7,439	8,155
	長期借入金			
その他固定負債	7,737	7,439	8,155	
正味財産の部	正味財産の部合計	241,872	242,202	238,124
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	40,148	40,478	36,400
	代替基金			
	その他一般正味財産	40,148	40,478	36,400
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		255,572	254,452	249,978

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
市財政支出等の合計	45,950	45,272	43,726
補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	45,870	45,192	43,646
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

内容はほぼ100%事業委託料(指定管理料)で、年4回の展示費用や施設管理費、人件費など。目的は新潟市名誉市民會津八一の業績の顕彰と普及活動推進、そしてその活動拠点である記念館施設の維持・管理のため。

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
純資産	241,872	242,202	238,124
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
抛出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	241,872	242,202	238,124

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度
経常損益		5 千円	401 千円	▲ 4,008 千円
自己資本比率	純資産	94.6 %	95.2 %	95.3 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	344.2 %	410.3 %	365.8 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	94.2 %	94.0 %	96.0 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産 － 資本金（基本金）	43,472 千円	43,802 千円	39,724 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	90.0 %	90.5 %	88.5 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.17	0.17	0.18
	遊休財産額			
資金運用	基本財産としての 有価証券の保有	● 有	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。 ○ ② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。 ○ ③ 資金運用に関する情報収集に努めている。 ○ ④ 元本割れのリスクはない。 ○	
		○ 無		

（2）団体の自立性

指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	88.0 %	88.1 %	87.2 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	9,250 千円	9,080 千円	8,839 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	1 千円	80 千円	▲ 802 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	3.2 %	2.4 %	2.9 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	335 千円	250 千円	317 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	40.1 %	38.6 %	40.4 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	0.0 %	0.0 %	35.9 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況			
●	有	計画名称 [會津八一記念館中期運営計画・原案策定中]	計画5年 平成 28～33
概要・数値目標			
<p>まずは2年後の生誕140年を照準に定め、その記念事業の計画・実施を優先したい。會津八一も歴史上の人物となった。それゆえその業績を伝えていくことは、新潟市民にとってますます必要になってくると考える。残した作品はもとよりその生き方。書家で俳優の松村雄基氏も「すがすがしさと優しさ、生きる活力を与えられる」と評す。市民にも再評価してもらいたい。普及手段として「奈良京都の歌碑」「写真で見る八一の生涯」を刊行したが(ともに2,000部)、それに続いて「県内の歌碑」「全国の歌碑」を同様形式でまとめる。膨大な収蔵品の整理は必須だ。紙の台帳だけでは全貌がつかめない。データ化と同時に主な館蔵品図録の作成を目指す。これは後世への責務と考える。さて入館者である。一つの目安は7,000人台の確保だ。29年度5,468人から30年度は7,800人台へと大幅に増えた(ただし29年度は7,010人だった)。入館者は企画内容次第という面が大きい。29年度減少した(伸びなかった)のは取り上げた人物の知名度が今一つだったからと思われるが、30年度は「中村屋サロン美術館」「奈良」の名前が大きく寄与した。しかし、そういった機会(企画)が常にあるというわけではないのが悩ましい。それでも八一(の短歌とその書)の原点は「奈良」にあることは言うまでもない。常にそのことを意識することが必要なのだとの強い思いが職員間で共有されている。幸いというべきか、元年度夏の展示も「奈良」の写真家の作品が八一の書との組み合わせで展示され、秋の特別展も「奈良」から作品が届く。入館者の増加につながってくれることを期待している。八一の「歌」と「書」と「人」に立ち返った展示ということを前回記したが、まさに「八一を知る」のテーマで30年度最後の展示を企画し「よく分かった」の評価を頂戴した。元年度の夏も「書の逸品」とうことで、八一作品をもっと見たいという声にこたえているものと自負する。30年度実施した「サービス」例①人の動きの鈍い冬場、それまでのアンケート回答者(=来館者)に割引特典付き案内はがきを出した。②新潟日報紙面を活用し読者プレゼントとして招待券を提供した。それぞれ利用率1割ほどであるが、来館につながる事が分かった。恒常的に実施していく。課題の「裾野」を広げるという面では、新潟県書道協会の協力を得て、元年度から展覧会タイトルを書家に揮毫してもらい、展示室入り口に掲出することにした。1展示期間中2人をお願いする(年8作品)。協会員、書道愛好家に一人でも多く足を運んでもらえることを期待してのアイデアだ。裾野拡大の対象は若い世代、とりわけ中高生だ。毎年春、市内中学生がく巡検活動で来館してくれる。「校長先生あて」に案内文書を送っているが、学校数は微増といったところ。はっきり言って「学校の広がりはずかしくも同じ学校」。その学校の(あるいは市としての)考え方=年間計画で校外学習活動の方針が決まってしまうのであれば、1館の呼びかけがどこまで効果あるのか自信がない。それは修学旅行先の選定に関しても同様だろう。「奈良・京都」に行くなら八一の勉強に記念館を利用してほしいとの呼びかけもしているが、果たしてどうなのだろう。郷土の先人を学ぶこと=文化の継承=という観点から各方面の協力を得たいところだ。県外への普及では、30年度は東京の中村屋サロン美術館との交換展(相手館が八一展を開き、当館が相手館の作品を展示)が実現した。これは相手あつてのことなので、機会があれば積極的に受け入れていくのは言うまでもない。また写真コンテスト入賞作品の巡回展示は、東京・奈良と新たに会場として加わった京都三学院、四国高松市の施設での実施が3年目に入る。上越市内でも30年度に引き続き開く。胎内市内を含め、開催箇所は7カ所。作品の輸送、展示・撤収作業、会期を考えると、開催場所の拡大には慎重にならざるを得ない。かつて呼びかけて応募のなかった学生について、何とか高校生の応募実現に道筋をつけたいと考える。一昨年、写真コンテストの共催を降りた早稲田大学會津八一記念博物館から、八一の名を冠した学術論文募集の構想が持ち上がり、協力の要請が来たが、その後進展していない。</p>			
●	無	未策定理由 〔奈良に続き京都に歌碑を建立し(29年度)、「東アジア文化交流都市」関連のシンポ(27年度)、會津八一没後60年関連企画(28年度)、奈良京都との交流会(28、29年度)や交換展(28年、30年度)などといった事業が続き、4人の職場ではじっくりたき台を議論する余裕がないというのが実情。〕	

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
●	有	就任時期 年度～ 依頼先職種 []	● 有 依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種 [税理事務所]
●	無		無

③ 事務処理改善の取組み			
●	有	取組内容 平成29年度～	〔窓口で駐車券の要望が多いことから、メディアシップ駐車場(1時間440円)の1時間無料券を、2,000円以上の記念館商品を買った入館者に渡している。取り扱い商品を紹介するチラシを作製し、見やすいように受付に掲示。〕
●	無		

④ 人材育成の取組み			
●	有	取組内容 平成17年度～	〔市や民間の生涯学習事業(市政トーク使いなど)の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、関連人物や周辺事項についても幅広い知識を習得してきている。それらが、會津八一の業績普及につながっている。上部団体の研修会にできる限り参加したり、県外博物館の見学や交換展で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼に応え原稿を寄せている。また新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会ととらえ、展示ごとに原稿を出稿している。〕
●	無		

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況			
●	有	策定期限 平成12年度～ 規定名称 [公益財団法人會津八一記念館情報公開規定]	団体ホームページ掲載
●	無	未整備理由 [役員は無報酬]	
			<ul style="list-style-type: none"> ● 定款等 21年度～ ● 事業内容 21年度～ ● 役員名簿 21年度～ ● 役員報酬 年度～ ● 事業報告 21年度～ ● 正味財産増減計算書 21年度～ ● 貸借対照表 21年度～ ● 事業計画書 21年度～ ● 予算概要 21年度～

改善対応区分
 A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B: 改善の取組の効果が始まっている
 C: 改善の取組に着手
 D: 改善の取組に向けて検討中
 E: 今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		後継者の育成・増員を検討しなければならない。				
改善・対応区分		A	B	C	● D	E
当該区分の理由		財政的裏付けがそもそも可能かどうか				
今後の具体的な取組み・対応方針等		日常業務に照らし合わせて人員増が必要があるとの認識を醸成・共有し、その上で増員に関わる財政的な課題を含め、市の所管課と話し合いを持つ。				
工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	増員の検討		増員の可能性を検討。 可能なら人材を探す	増員の可能性を検討。 可能なら人材を探す		
今後の改善・対応 成果指標	改善指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	増員の検討	計画		増員の可否判断と人材発掘	増員の可否の検討	
		実績		なし		
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 検討に至らず			
		計画				
		実績				
進捗状況		【30年度までの達成状況及び今後の見込み】				

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。					
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E
当該区分の理由		アンケートを見ても展示に対してよい評価をいただいていることが分かる。写真コンテストも応募者が広がっている。					
今後の具体的な取組み・対応方針等		展示は、さまざまなテーマを設けると同時に、常に「會津八一の人物・作品」といった基本を紹介することを意識して企画していく。オールドファン以外にも愛好者を増やすためだ。また、普及活動の一環である写真コンテストは、30代以下の応募を促すため、特に高校の写真部に応募を働きかける。					
工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	写真コンテスト	第11回コンテスト実施。巡回展会場の開拓	第12回コンテスト実施。対象短歌の範囲を増やす	第13回コンテスト実施。募集内容（要項）の見直し			
	その他	早大會津八一記念博物館提唱の学術論文賞創設への協力	各企画展の展示内容（性格付け、狙い）の再考	展示の性格付け			
今後の改善・対応 成果指標	改善指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		
	写真コンテスト	計画	優秀作品巡回展会場に高松市と京都を追加	巡回展会場を上越市を追加。また、協賛企業の発掘	学生への応募呼びかけ、部門賞の設置		
		実績	高松と京都で実施	奈良県内、京都市、高松市、東京、胎内市、上越市で実施			
	進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 京都や高松市での巡回展は軌道に乗った。上越市での開催も2年連続で恒常化の兆し。対象とする短歌の数を増やしたことで、作品傾向のマンネリ化も防ぐことができた。					
その他	計画	早大會津八一記念博物館との協力（論文賞創設）	体験講座を2回実施（5月と8月）	展示テーマ（酒）に沿った体験学習			
	実績	具体化の前段階	実施				
	進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 30年度の「八一を知る 八一がわかる」展は、従来の八一の作品をもっと見たいという要望を念頭に、「會津八一の業績を分野別にみる」とのコンセプトで開催し好評を得た。新年度夏の企画展も「會津八一書の逸品」とのテーマで、「書家」にスポットを当てた作品展。いわば原点にかえったかたちでの展示は明確に八一の姿・業績を印象づける成果を上げた。					

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
当該区分の理由		計画の前に日々、事業実施という具体性でビジョンを実践している。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等		文化を創造・形成する担い手は市民であることは言うまでもなく、その市民一人一人が郷土の歴史あるいは郷土の先人に対して誇りと自信をもつことがその地域の文化的豊かさ・厚みともなると信じる。時代を担う若者特に中高生にはそうあってほしい。そのためにある意味啓発的な取組みも必要だと考え、2018年度は「八一の基本解説」的な展示を実施。また2019年度、会津八一の生涯を写真で見ていく冊子を発行し、春、訪れる中学高校生に配布した。こうした地道な取組みを続けていく。				
	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		①長期計画作成の意義	生誕140年を意識してこれからの展示・事業計画を考える	生誕140年を意識すると同時に、文化芸術としての八一の「書」「歌」に視点を置いた展示・事業内容を考える	ファンのすそ野を広げるため、方向性の底流に八一の「書」「歌」を見せることを置いて展示・事業内容を計画していく。生誕140年を意識する	生誕140年事業の具体化	
	成果指標	改善指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		計画	実績	生誕140年事業の構想立案	生誕140年事業の構想	生誕140年事業の構想	
			実績	未着手	未着手		
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 おぼろげな構想・希望を職員各自が持ち始めているが、まだ形とはなっていない。				
		計画	実績				
			実績				
	進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】					

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
当該区分の理由		収益事業が黒字化していない。					
今後の具体的な取組み・対応方針等		公益事業会計は余剰が出ないよう（県の指導による）事業を実施し、収益事業は引き続き経費削減を目指し、黒字を目指す。					
今後の改善・対応	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		普及活動	小学生までの年齢を対象に八一の生涯を描いた絵本を出版する（28年度に着手）	簡易版の歌碑一覧の作成	歌碑写真集製作（県内）	歌碑写真集製作（奈良京都以外の県外）	
	発信活動		鑑定事業実施を新聞広告に出す				
	成果指標	改善指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		計画	実績	伝記本	簡易版歌碑一覧	歌碑写真集製作	歌碑写真集製作
			実績	中断中	発刊		
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 伝記本は中断したまま。その代わりに、「写真で見る会津八一の生涯」を発行。中学生の見学者に無料で配布。さまざまな機会（地域での出前講座など）にこれを配布し、普及材として活用している。「奈良・京都にある会津八一歌碑」を紹介する冊子を発行。当該の寺社には贈呈するとともに、関連機関・自治体・観光団体・個人・学校に無料配布した。				
		計画	実績		テレビCM作成	テレビCM	テレビCM
			実績		2本制作－放送		
	進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 テレビCMを流した企画展のアンケートでも、展示を「放送で知った」という割合が多く出ている。やはり効果がある。特別展と冬場の企画展での実績。鑑定会も新聞広告でと考えたが、収入との兼ね合いで中止した。					

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。					
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E
当該区分の理由		回収率アップは、アンケート回答への動機付けがうまくいっている結果であると分析している。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等		「応えてくださってありがとうございます」の意味をこめ、粗品（記念品）進展といった還元策で、回答へ導く。また、「ゆっくりアンケートを記入する場所がない」との意見もあるので、そういう場所を確保できるか検討する。しかし、施設のスペースは限られている。				
	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		アンケート項目の手直しによる具体的な要望を引き出す	設問項目の精査・検討	新しいアンケート用紙により、意見要望をつかむ。開催認知の手段・方法を分析し広報・告知の仕方に役立	要望意見の展示への反映を目指す	要望意見の展示への反映を目指す	
		回収率アップを図る	アップのための方策を検討・決定する	記念の品を渡して回答状況の改善を図る	要望への回答を館内掲示できるようにし、観覧者に「参加意識」を持ってもらう	記念品進呈	
	成果指標	改善指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		アンケートの回収率向上	計画		回収率7%	回収率8%	回収率9%
			実績	6.4%	7.5%		
			進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 回収率はアップした。入館数も29年度比2,000人増なので、回答の数も大きく増えた。要望意見を一覧にまとめ、職員の意識を高めることにも役立った。結果を館内に掲示。入館者の思いや意識を受け止めてもらえることを知ってもらう。			
			計画				
			実績				
進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】						

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。					
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E
当該区分の理由		30年度、まず図録や書簡集の印刷冊数を減らし、わずかではあるが在庫縮減を図った。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等		常に専任税理士の指導のもと、「処分」という形でどこまで処理が可能かも含め、引き続き減らす工夫をしていく。				
	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		制作部数をみなおす		特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の作り方、制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の作り方、制作部数見直し	
		在庫の有効利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	割引販売をしながら、在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	
	成果指標	改善指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		販売促進	計画		前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増
			実績	1,857千円	1,707千円 (8%減)		
			進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 目標に反して減少した。過去の図録の場合、大幅値引きで引き付けるしかないが原価割れを招く。痛しかゆした。アンケートでどのような品物を置いてほしいか、売り上げに寄与する商品開発を目指す。			
		既存在庫削減	計画		毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減
			実績	12,326千円	11,111千円 (10%減)		
進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 図録や書簡集は引き続き製作部数を減らし製作費を圧縮。なおかつ値引きで販売促進を図り在庫を減らす。						

改善対応区分
 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B:改善の取組の効果が始まっている
 C:改善の取組に着手
 D:改善の取組に向けて検討中
 E:今は実施せず今後の課題とする

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

① 今後の改善・対応 成果指標	今後改善を要する事項	展示室が1室である。(廊下にも展示できるが) 1室というのは内容は別として「ここだけ?」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい					
	改善・対応区分	A	● B	C	D	E	
	当該区分の理由	会議室やビデオルームをいわば臨時展示室にして作品を並べた。展示室から離れているので、その空間だけ独立した作品(テーマ)で展示した。					
	今後の具体的な取組み・対応方針等	会議室やビデオルームをいわば臨時展示室にして作品を並べた。しかし、主展示室の続きをだだら並べるわけにはいかず、その空間だけ独立した作品(テーマ)にしなければならぬ。いつでもそこを使って並べられるわけではないのが弱いところ。					
	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		展示のボリュームアップ		特別展で会議室、ビデオルームに作品・所蔵品を展示	常設的スペースの設置または、常設的内容の展示の工夫		
	改善指標・成果目標	改善指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		計画	計画		会議室、ビデオルームの、展示スペースへの転用	常設的展示の模索	
			実績		展示ごとに活用した		
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 特別展に限定することなく、会議室にも作品(主に軸物の複製)を展示し、ビデオルームにはのぞきケースを運び入れたり壁に作品を飾る工夫をしている。今後もその方向でいく。ただし展示できるスペースはごく狭いので作品数は限られる。				
計画		計画					
		実績					
進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】						

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	<p>受託事業費（指定管理料）については、担当課の指導に基づき執行している。公益財団法人の会計うち、公益事業会計では余剰金を出すことは認められていない。歌碑写真集冊子や八一の生涯を紹介する冊子は商品ではなく普及材として公益目的事業に位置付けている。</p> <p>収益事業のうち、鑑定事業収益は、その年によって鑑定依頼数の多寡により収益が左右される。また書籍については図録や書簡集の制作部数を減らしているが、販売価格との兼ね合いで極端に減らすことはできない（制作単価上昇）。過去の図録は制作単価ぎりぎりかそれ以下で販売するようにして来館者に呼びかけている。そのことで在庫を減らし、少しでも収入につなげたい。引き続き収益に寄与するヒット商品開発を模索中だ。</p>
団体の自立性	<p>予算の面では新潟市からの受託事業費がほとんどを占める。活動においては展示をはじめ講演会、写真コンテストなどの事業は、財団独自で企画・運営している。</p>
経営の効率性・適正性	<p>文化活動にどこまで「効率」という考え方を当てはめればよいかは議論があるところだろう。それはさておき、會津八一記念館は、書と短歌において独自の世界を切り開き高い評価を得て新潟市の名誉市民となった會津八一～そのこと自体、新潟市民はもっと誇りの思うべきであるが～を顕彰・伝承する唯一の施設であること。そこに存在の意義がある。館が市民に学びの場、文化・芸術鑑賞の場を提供していることは間違いない。ただ、費用対効果の点から見れば満足のいく数字ではないだろう。それでも、會津八一という人物が、単に素晴らしい作品を残したというだけにとどまらず、その人間性においても「われわれの特に若い人たちが学ぶべき先人」であり、館があることにこそ意義があるといえる。つまり、今展開している展示、講演、その他普及・顕彰事業活動は「効率」と別の観点でも、継続していくことに意味も必要もあることだと考える。</p>
その他	
総括的な所見	
<p>新年度（2019年度）最初の企画展のエピソード。「篆刻」という一般にはなじみの薄いテーマで「入り」の予測がつかなかったが、簡易図録の引き合いが意外なほどあり（県外からも「見に行けないから」と注文あり）、150冊以上売れた。ここ2、3年、1展示せいぜい30～50冊程度だったことから反響の大きさが分かる。雑収入に寄与した。担当者のPC内のデータをA4用紙に館のプリンターで印刷しただけのもので500円。職員による手作り製品で、文字通りうれしい悲鳴を上げた。テーマも珍しいうえ、500円の安さで展示内容を知ることができる点が良い結果を生んだ。どんな展示が関心と呼ぶか予想は難しく、また特別展図録のように立派でなくともよく売れるのではないかと。展示企画の内容と出版物の在り方（作りと価格）—今回、この二つをあらため考えさせられたという次第。特に後者は、特別展図録や書簡集の作り方に示唆を与えるもので、さらに製作部数・費用の抑制、販売促進に向け策を練っていききたい。出版物といえば奈良と京都にある「八一歌碑」を冊子にまとめることができ、好評を得ている。全般、まだまだ規定種目の実施に追われ、自由課題種目に進めないというのが現状で、力不足は否めない。また、アンケートに表れた細かな要望（音声解説、外国語パンフ、展示のボリューム、ゆったりできるスペース等）にどう答えていくかも課題として残る。さて、当記念館の顕彰対象は會津八一。所蔵し展示できる作品は八一や交友関係にあった文化人らの書や絵、書簡。自他ともに認めるのはよくそれだけの材料で毎年展示が企画できるということ。テーマを考える学芸員の苦勞に頭が下がる。八一と一度も会わずに手紙だけの付き合いで作品を交換し合った茶人・陶芸家。中村屋サロン美術館の創業者。八一の原点「奈良」。ここ数年を見ても、目新しさやネームバリューで広い範囲の愛好家の関心を引き起こしている。一方で會津八一の書作品に重点をおいて「じっくり見たい」という声にもこたえる。限られた展示スペースや空間を最大限使い、その二つの要素を盛り込むのに頭をひねっているとっていい。八一の短歌と書—言い換えれば学問と芸術、そして生き方。それらの普遍的な価値を感じ取れる（与えてくれる）空間になっている。ただ、わずかでも常設スペースがほしい。</p>	

【所管課による評価】

現状に対する評価	<p>企画展が好評であった点や、年間入館者数は前年に比べ、増加している点は評価できる。その一方で、主要事業の目標を下回る項目が多い結果となっている。</p>
課題及び改善すべき事柄	<p>年間入館料の増加に向けて、さらに周知や魅力発信による集客向上に取り組んでもらいたい。また、職員の計画的な採用により、職員育成・職務能力の強化に努めてもらいたい。</p>
今後の指導方針	<p>年間入館料収入についても留意しながら、引き続き入館者数の増加に向けた取組みを実施していただきたい。</p>

【新たに改善を要する事項】

① 今後の改善・対応目標	今後改善を要する事項					
	今後の具体的な取組み・対応方針等					
	工程	実施事項・計画	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標	改善指標・成果目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
			計画			
		計画				

【総合評価】

概ね良好	改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
総括的な所見			
改善指示事項			

【総合評価を受けての団体としての決意】

--

【総合評価における改善指示事項への対応方針】

改善指示事項						
① 今後の改善・対応目標	今後の具体的な取組み・対応方針等					
	工程	実施事項・計画	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標	改善指標・成果目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
			計画			
			実績			
		計画				
		実績				